

## 出雲大社の草本植物調査 中間報告

三浦憲人（ホシザキ野生生物研究所）

ホシザキグリーン財団では、島根県内に生息する野生動植物の保護や生息環境を保全するという視点から、生息状況などの調査を行っている。その基本的な調査として、島根県内の特に東部の生物調査を行っている。

島根県出雲市にある出雲大社は、広大な境内地に人の立ち入ることの少ない原生的な自然から、管理や手入れの行き届いた草地や池、湿地など多様な自然が見られる。これまでに、出雲大社境内の野鳥や樹木の調査が行われており、その調査結果を基にして「出雲大社境内自然ガイド 野鳥編」が作成されていたり、境内の植栽樹木には樹名板と併せて、QRコードが表示してあり、樹木の一般的な情報を知ることができるようになっている。

出雲大社境内およびその周辺の草本植物の調査を行うことで、出雲市内の特に島根半島西部の植物情報を蓄積することができるだけでなく、出雲大社に参詣する方への自然情報提供としても利用することができると考えられる。

調査は平成28年4月から、毎月1~2回行った。出雲大社境内および周辺を踏査し、生育する草本植物（シダ植物および種子植物）を目視によって確認し、種の同定を行った。また、記録として写真を撮影した。

平成29年1月までの調査において、約380分類群を確認した。その中には、県内に広く分布する種が多かったが、島根県の絶滅危惧種に指定されているナチシダ（イノモトソウ科）およびコケミズ（イラクサ科）を確認することができた。



ナチシダ（しまね RDB 準絶滅危惧 NT）



コケミズ（しまね RDB 準絶滅危惧 NT）